



大田市志学地区

みんなでつくる未来会議で10年先の志学へつなぐ

自治会や地区内の各種団体を一本化し設立された志学まちづくり協議会。小中学生も参加する「志学未来会議」では、10年先の志学の将来について住民みんなで議論を行っています。地区計画の3本柱①つながりと魅力をつくる(生活機能と生活交通の確保)、②定住と交流をつくる(定住・交流の促進)、③仕事と収入をつくる(地域産業の振興)に沿って、多様な取組を展開しています。

これまでの地区のあゆみ

- H20 地域内に「組織再編検討委員会」を設置
- H21 「志学まちづくり協議会」を設立
(地域内の自治会、消防団、地区社会福祉協議会、小中学校PTA、商工会、老人会等計20団体が協議会に移行・参画)
- H28 県の現場支援地区に選定
(H28.10～R2.3)
- H29 地域住民の議論の場として「志学未来会議」を設置

- H30 「志学地域づくり計画(地区計画)」を策定
- H30 共同浴場の存続・充実を目指し、温泉活用会議を設立
(地域住民で管理運営する共同浴場(鶴の湯・亀の湯)の活用プランを策定)

- H31 2つの集いの場の立ち上げ
(高齢者の通いの場/放課後子ども教室)
- R2 高齢者等の移動支援として相乗りタクシー事業を開始

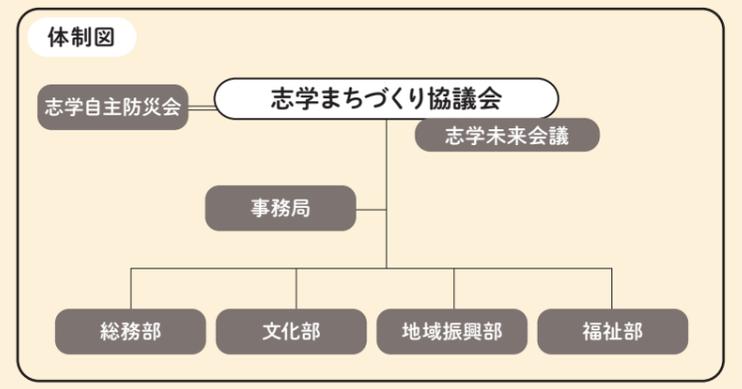
Step 小さな拠点づくりのステップ

- step.1 課題** これからの志学のまちづくり・人づくりのために
人口減少・高齢化が進む中、地域内で様々な団体が個々に活動していることで、役員の重複や会議数の多さが住民の負担感につながっていました。志学連合自治会を中心に先進地視察や勉強会を行うとともに、各組織の効率化を目指し、組織再編検討委員会での話し合いを進め、地域内の20団体を一つの組織として一本化、全住民が会員となる「志学まちづくり協議会」を設立することになりました。
- step.2 計画** 住民参画の「未来会議」で志学の将来を描く
協議会設立以降、イベントや地域の魅力発信に力を入れて取り組んできましたが、著しい人口減少や観光産業の衰退など地域の厳しい状況に、どうにかしなければという思いが強くなり、改めて地域の強み・弱み、目指す姿を話し合うための「志学未来会議」を設立。子どもから大人まで多くの住民で勉強会やワークショップを重ね、若い世代を中心に結成した計画策定ワーキングチームにより、「志学地域づくり計画」を策定しました。
- step.3 体制** 取組のスタートに向けて
協議会役員と計画策定ワーキングチーム合同での話し合いを重ね、取組の実行体制や優先順位を決定していきました。
- step.4 実践** 思いを形に
皆で話し合った計画の優先順位に沿って、集いの場づくりや相乗りタクシー事業、地域で管理運営する共同浴場の活用に向けた新たな取組がスタートしています。
- step.5 発展** 地域資源を活用し新たな挑戦へ
未来会議での住民提案を受け、地域の資源でもある「三瓶そば」を活用し、小さなビジネスに挑戦することに。協議会内に新たに特産品部会を立ち上げ、持続可能なまちづくりに向けた検討を進めているところです。




●市役所・支所 ●公民館等 ●教育機関等
●医療機関 ●買い物施設 ●ガソリンスタンド
※志学まちづくりセンターはR4.1～の位置図

- 人口 516人(高齢化率 53.3%)
- 地域の特徴 ・国立公園三瓶山に指定された区域に立地し、市内中心部まで車で約30分の距離
・標高差があり冬場の積雪量が多い



Pick UP 私たちのやり方 Our Project

子ども・高齢者の集いの場
未来会議での話し合いにより、平成31年から2つの集いの場が新たに立ち上がりました。

放課後子ども教室 「SETにこここ教室」

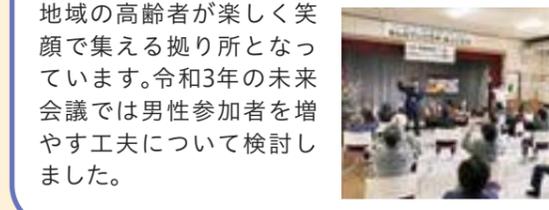
地域の子どもたちが安全・安心に過ごせる放課後の居場所づくりを目指し、住民ボランティアにより、小学校の空き教室を活用して週2回の放課後子ども教室が運営されています。



まちのひとの声
ボランティア頑張ってます！子どもを預かる責任はありますが、保護者さんや子どもたちの喜ぶ顔がやりがいにつながっています。

高齢者の通いの場 「志学ほっといどばた」

高齢者のつながりづくり・介護予防を目的に、志学まちづくりセンター内で週1回、高齢者の通いの場が開催されています。通いの場の立ち上げに向けて、他地域への視察や研修等に1年間をかけて準備・検討を重ね、地区住民の中からコーディネーターや運営ボランティア、送迎サポーターを確保。体操やゲーム、会食など様々なプログラムで地域の高齢者が楽しく笑顔で集える拠り所となっています。令和3年の未来会議では男性参加者を増やす工夫について検討しました。



step.1 課題
地区内には放課後児童の預かりの仕組みがなく、これが理由で他地域へ転出をした事例もあったほど切実な課題でした。

step.2 計画
「若い人の定住には子どもを安心して預けられる場所が不可欠」という地域の強い思いから、協議会役員と子育て世代が中心となった検討メンバーでアンケートや他地域への視察を行い、子どもの居場所づくりに向けて話し合いを重ねました。

step.3 トライ
平成31年から26名の住民ボランティアにより、週1回の教室がスタート。教室内の机や冷蔵庫、おもちゃなども住民から寄贈されるなど、地域の協力により運営されています。

step.4 これから
子ども・保護者からのニーズも高く、令和2年からは開催頻度を週2回に増やしました。現在ボランティアの多くが70代以上ですが、今後も継続的な運営ができるように担い手確保・育成に取り組んでいます。

相乗りタクシー事業「ほっと四岳ささえ」

地区住民の移動手段の確保に向けて、志学まちづくり協議会において、令和2年から地域内のタクシー会社を活用した相乗りタクシー事業をスタートさせました。地域内、市内中心部等3つの運行エリアを設定し、運賃の一部をまちづくり協議会で補填しています。現在約15名の利用登録があり、主に地域内や市内中心部への通院や買い物で利用される方が増えています。

